

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年12月4日

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 【評価実施概要】

事業所番号	2773302159
法人名	株式会社 小池介護サービス
事業所名	グループホーム天下茶屋
所在地	大阪市西成区天下茶屋2丁目18番32号 (電話) 06-6653-1333

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 11月 26日

## 【情報提供票より】(平成 21年 10月 31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	24人	常勤 6人, 非常勤 18人, 常勤換算	13.6人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) ②			
保証金の有無 (入居一時金含む)	① (294,000円) 無	有りの場合 償却の有無	① / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100円			

## (4) 利用者の概要 (平成 21年 10月 31日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	8名	要介護2	2名		
要介護3	0名	要介護4	4名		
要介護5	3名	要支援2	1名		
年齢	平均 82歳	最低	73歳	最高	100歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人小池外科、医療法人小林デンタルクリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域で貢献する医療法人を母体とした営利法人が、複数のグループホームを開設し運営しています。『私たちはいつも心がけています「笑顔がいっぱいのホーム」「主体性を尊重し、その人らしい生活を送れるホーム」「地域の方と共に家庭的な安らぎのある生活をしていただきます』の運営理念のもと、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、職員、地域の人達と共に支えています。母体法人診療所の医師と職員として配置されている看護師が連携をとり、医療と看護を提供しています。利用者は優しく馴染みの職員に囲まれゆったりと生活しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連科目: 外部4)
	前回の外部評価受審で示された事項はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価は、管理者が案を作り、全職員と相談しながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域包括支援センター職員、自治会の会長・副会長・総務部長・女性部長等の幹部役員、家族の参加のもとで2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況や行事、インフルエンザ対策会議やケア会議、ヒヤリハット等の報告をしています。今後、地域のイベントやふれあい喫茶に参加し、地域との交流を深めていくことについても話し合っています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の健康や安全に関わる事項についてはその都度家族へ電話で報告しています。家族には利用者の近況を知らせる手紙を送付し、行事写真を中心にした季刊紙「グループホーム天下茶屋スマイル」も送付しています。金銭管理については定期的に家族の確認のサインを得ています。家族とは面会時にできるだけ会話をし、運営推進会議や夏祭り、クリスマス会等には家族の参加を求め、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また意見箱の設置をしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	今年、地元自治会の役員体制の変更後、運営推進会議を通じて交流が活発になっています。管理者は自治会の班長に任命され、定例の会議に出席して自治会の運営に参加しています。利用者が地元の祭りやふれあい喫茶等の行事に参加するよう誘いを受けています。職員は廃品回収や清掃活動、年末の夜警に参加し、ホームの夏祭りや手品の会ではボランティアの協力を得ています。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『私たちはいつも心がけています「笑顔がいつぱいのホーム」「主体性を尊重し、その人らしい生活を送れるホーム」「地域の方と共に家庭的な安らぎのある生活をしていただきます』の運営理念のもと、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう家族、職員、地域の人たちと共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。定例のスタッフ会議やケース検討会議、毎日の業務を通じて方針を共有し、介護サービスに反映させるよう話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	今年の地元自治会の役員体制の変更後、運営推進会議を通じての交流が活発になっています。管理者は自治会の班長に任命され、定例の会議に出席して自治会の運営に参加しています。利用者が地元の祭りやふれあい喫茶等の行事に参加するよう誘いを受けています。職員は廃品回収や清掃活動、年末の夜警に参加し、ホームの夏祭りや手品の会ではボランティアの協力を得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価受審で示された事項はありません。今回の自己評価は、まず管理者が案を作り、全職員と相談しながら完成させ、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、自治会の会長、副会長、総務部長、女性部長等の幹部役員、家族の参加のもとで2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況や行事、インフルエンザ対策会議やケア会議、ヒヤリハット等の報告をしています。今後、地域のイベントやふれあい喫茶に参加し、地域との交流を深めていくことについても話し合っています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の担当職員と相談や情報交換を実施し、利用者が入居に至るまでの連携が密に行われています。また、事故報告書や運営推進会議の議事録も提出しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えています。また、利用者の健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。家族には利用者の近況を知らせる手紙を送付し、行事写真を中心にした季刊紙「グループホーム天下茶屋スマイル」も送付しています。金銭管理については、定期的に家族の確認のサインを得ています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、運営推進会議や夏祭り、クリスマス会等には家族の参加を求め、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また意見箱の設置をしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職が少なく、利用者との馴染みの関係が築かれています。利用者の表情に安心感と明るさがあります。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修ともに熱心に取り組み、「認知症」や「感染症」「緊急時対応」についても研修が実施されています。スタッフ会議の際に、内部研修や伝達研修を行っています。職員の資格取得の支援をし、新しく認知症ケア専門士の資格を取得した職員もいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自主的に西成区のグループホーム連絡会を開催し、管理者グループ、職員グループそれぞれに定期的な研修や事業所見学会などの交流を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には職員が家庭訪問を行ったり、利用者や家族のホーム見学等を通じて馴染みの関係を作ったりする等、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居できるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。家事の得意な方、農作物に詳しくサツマイモやキュウリの植え方を助言してくれる農家出身の方、絵を描いて和歌を書き入れる方等、利用者の得意な分野でその力を発揮してもらい、家事や行事の機会を通して、学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使ってアセスメントを行い、利用者の希望や意向の把握に努め、利用者の誕生日毎に意向の追加や整理を試みています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや心身の状況を把握し、医師や看護師の意見、家族や利用者の思い・要望を反映させた介護計画を作成し、家族の同意を得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。計画作成担当者は毎月ケア会議を開催し、介護計画の援助項目毎にモニタリングを実施し、サービス担当者会議を開いて介護計画の見直しにつなげています。また今年から利用者毎の介護計画の援助項目を見やすく一覧表にして職員が毎日意識して支援できるようにしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の依頼により通院介助を行っています。地域のボランティアによるレクリエーションの支援を受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は医療連携した母体の医療法人の医師と職員として配置している看護師による医療と看護を受けています。診療科目によっては入居以前のかかりつけの医療機関から、引き続き医療を受けている利用者がいます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの実績はありませんが、入居時に利用者・家族には看取り実施の方針を伝え、同意書を取り交わしています。重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から利用者や家族の意向を聞き、状況の変化とともに、利用者と家族、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認を続けていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員は利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。利用者の体調やペースに合わせて、朝食の時間や入浴時間など、柔軟な対応をしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の希望も取り入れ、毎食ホームで調理をしています。利用者は野菜の下ごしらえや食事準備、後片付けなどの得意な分野で分担しながら参加しています。夏には戸外でバーベキューをしたり、回転寿司に外出したりします。また、菜園で取れた野菜が食卓に並ぶこともあります。職員は利用者と同じ物を食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しく和やかな雰囲気を作っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週に3回は職員と会話をしながら寛いだ入浴を楽しんでいます。季節によってゆず風呂などの行事風呂も楽しんでいます。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。農作物に詳しく栽培の得意な方、絵を描く方、ホームにあるパチンコ台を楽しむ方、職員とマージャンや将棋を楽しむ方、みんなで職員のギター演奏を楽しみ、歌を歌う等、特技を活かした楽しみごとや気晴らしの支援を行っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には周辺の地藏さん参りやスーパーへ日用品の買物に出かけています。昔馴染みの喫茶店へ行き、外食に出かける支援をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は内鍵方式にしており、施錠はしていません。外出願望のある方には職員の見守りで対応ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害避難訓練は年2回実施し、うち1回は消防署の指導の下で実施しています。非常・災害時の食料品と水を備蓄しています。地域の要請で、災害時には避難場所としてホームを提供することにしてあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をして いる	利用者全員の食事摂取量と水分摂取量を把握 し記録しています。栄養バランスについては 同一グループの老健の管理栄養士のアドバイ スを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にと って不快な音や光がないように配慮し、 生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関付近のスペースが広く、犬の姿を した郵便受けや季節の花もあり、玄関には利 用者の絵画や手作り作品が飾られ訪ねやす い雰囲気になっています。明るく広くゆた りとしたリビング兼ダイニングルームは壁 や椅子をピンク系統の色で揃えています。 手作りで紅葉をあしらった季節感のあるカ レンダーや行事写真も飾られ、大きめのソ ファアが寛げる居場所になっていて、利用 者が落ち着ける雰囲気になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたもの や好みのもを活かして、本人が居心地 よく過ごせるような工夫をしている	居室にはホームが提供しているベッド・衣 装タンス以外に、利用者が持ち込んだ整 理ダンス、飾り棚、椅子、仏壇、手作 り作品、家族の写真、テレビ等があり ます。百歳の長寿を祝う内閣総理大臣 表彰状が飾られた部屋もある等、利用 者が安心して過ごせる、個性的な落 ち着いた雰囲気の部屋となっています。		